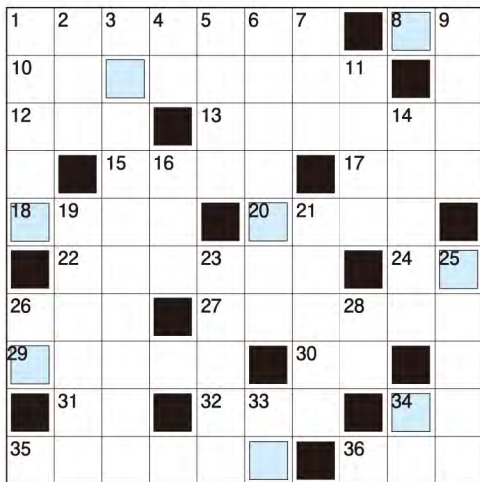


クロスワードタイム

明けましておめでとうございます。本年もクロスワードをよろしくお願ひします。
二重枠の言葉を並び替えると答えが出ます。答え、郵便番号、住所、氏名、加盟組合、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。正解者の中から抽選で30名様にクオカードを贈呈します。

■×切:2月14日(金) ■宛先:mail → info@nikkenkyo.jp はがき → 〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3F 日建協クロスワード係

ヒント:これが決まれば金メダル



ヨコのカギ

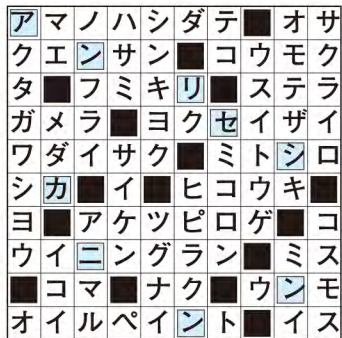
- 初夢で見ると縁起がよいものの順位。「○○○○○三茄子」。
- 新約聖書に登場する、パウロの協力者。
- 暦注の六曜(ろくよう)の一つ。万事によいとされる日。
- からだに力を入れること。また、力が入ること。
- 料理で、サイコロのような小さな立方体に切ること。
- 概要だけを記した簡単な系譜。
- 簡単な絵のような形で、言葉・文字・記号の代わりとするもの。
- チョウジの別名。また、その花のつぼみを乾かした香辛料。肉料理などに用います。
- 同類のものを集めたもの。同じ種類の記事・語句などを集めた書物。
- 複数の品種・銘柄と組み合わせることで、よりおいしいお米になり、品質・価格も調整する効果があります。
- 出世魚で、体長80cm以上のものを呼びます。
- デビュー曲「夏の日」の1993年が大ヒットした、男性デュオグループ。
- ステージに整列し、全員が一斉に同じステップを踏みます。
- 中・高等学校で、生徒の自治意識を育てるために設けられた組織。
- 歌に伴う言葉のこと。
- 近畿地方のほぼ中央を占める県。
- もし、ある事が起こったとき。そうなった折。
- 1,000kgを表す単位。
- トウモロコシを使った、西洋料理の汁物。
- 釣りの道具です。

タテのカギ

- 欧文活字の一つで、少し右に傾いた書体。
- 区画された土地の区域。一定の範囲の土地。
- 家族連れで気軽に利用できる料理店。
- ネズ(社松)の実の香りをもった蒸留酒。
- 同じ耕地で、1年に2回同じ作物を栽培すること。
- 日常の動作における身のこなし。
- 各種の遊戯施設を備えた、公認のギャンブル場。
- 漢文を訓読する際、文字の順序とは逆に、下の字を読んだあとで、読む字。
- 洋服のえりに折り返しがなく立っていて、胸もとで詰まっているもの。主に学生服にみられます。
- 疑問や反語の意を表す形の文。
- よる。夜中。夜間。
- 米国の映画監督・俳優で、主な監督作品に「スタンド・バイ・ミー」や「ミザリー」があります。
- 上位の合議体のために作業する、委員によって構成される組織体。また、その会議。
- 自動車を運転する人。
- 聞くこと。聞き取り。ヒアリング。
- ことわざ。「無くて七〇あって四十八〇」。
- 祭礼のとき、引いて練り歩く屋台。
- 杏(あんず)を英語で言う「○○リコット」。
- 舞台などで、最後に出演する人。

Vol.799クロスワード 正解と当選

答えは「リニアシンカンセン(リニア新幹線)」でした。



多数のご応募ありがとうございました。
次の当選者の方々にクオカードをお送りします。
谷澤ちか子(安藤ハザマ)、加藤 寛、白井淳裕、安岡礼史(鴻池)、
伊藤規子(五洋)、茂木智行(佐藤)、小出直剛(シミズ)、
河内拓也(銭高)、谷口弘樹、林 加代子(鉄建)、
青木奈菜、島内和典、渡邊麻衣香(東洋)、
菅谷悦和、宮下 淳(戸田)、鈴木秀幸、中山 淳、東 圭介(飛鳥)、
浅沼秀雄、梶野祐司、浜田瑞穂、又市麻梨子(西松)、福田 喬(JS)、
網岡直美(松村)、榎木恭子、森本雅志(三井住友)、
田中裕人、長倉康、中村賢作、山田敦子(横河) <敬称略>

編集後記

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
皆さん、年末年始は心身ともにゆくりと過ごされましたでしょうか。帰省や旅行など、リフレッシュされたのではと推察いたします。この一年も日建協は全力で前進していきます。ぜひ皆さんのお力添えをお願いいたします。

さて今号、重要な活動である会社訪問における加盟組合企業経営者への提言と意見交換について報告しました。組合と経営者、立場は違いますが『魅力ある建設産業にしなければならぬ』という真剣な思いは同じであることが分かりました。

また、加盟組合参加型企画として「海外のお弁当特集」を掲載しました。ゼネコンの海外進出が進むなか、加盟組合間において海外作業所の情報を少しでも展開したいという思いで企画しましたがいかがでしたか。参加いただいた皆さんの協力の下、とても読みごたえのある誌面になったのではないかと思います。

「Compass」は、1954年12月の初刊からこれまで発行を積み重ね、今回ついに800号となりました。記念特集として過去の日建協の歩みを振り返っていますので、ぜひご覧ください。これからも、私たちの活動を皆さんに理解していただくことで、日建協への参加意識と連帯意識が少しでも高まるようお願いを込めて制作していきます。忌憚のないご意見、ご感想をお待ちしています。

もや 舟い

「遭難」—山登りをする人にとってドキッとさせる言葉であり、辞書を引くと、「災難にであうこと。特に山や航海で命を失うような危険にあうこと」とある。

山登りが趣味の某は、過去に大きな遭難を1回経験している。

それは大学3年のとき、スキー部で行った月山夏合宿で起こった。月山は夏スキーで有名な山だが、某の所属していたスキー部はリフトのある南西面には目もくれず、南東面の「清川小屋」で自炊しながら、残雪を整備しポールを立て練習するといった合宿を例年おこなっていた。

通常、下から登山道を使うので迷うことは無いが、その年は台風で途中の川が増水し渡り困難。南西面から頂上を経由し南東面に下りるルートで小屋にむかわざるをえなくなった。ところが頂上付近は雪が多く小屋までの登山道が見つからない。残雪を越え見つけた登山

道を下つたらルートが誤っていたのである。

夕方になり、疲労と不安で途方にくれる部員たちを横目に、責任者の一人だった某は、「ここに荷物を置いて歩ける人で登山道を探そう。疲れて歩けそうにない人はここで宿営する準備をして、腹ごしらえをしよう。」もう、生きるのに必死である。

そんなとき、遠くに明かりが見えた。先発隊が小屋に着き飯を炊く準備を始めたようだ。「助かった。」その明かりを頼りに、持っている力をふり絞り励まし合いながら小屋にたどり着いたときは、陽もとっぷり暮れていた。

あれから20年余...今でも部員と集まると当時のことが話題に上る。大げさかもしれないが、さまざまな奇跡が揃って今ここに生きていられるのかもしれない。

以後、山登りの際は、入念な計画と十分な装備で臨むことにしている。(guntri)